

一般質問

鈴木 更司 議員



Q 本市の団体への助成金額・補助金額の算定方法について伺う

A 「事業費助成型補助金等交付要綱」を定めております

Q 本市の団体への助成金額・補助金額の算定方法について、共通の基準があるか、また、正しく使われているかなどの管理や指導について伺います。

A 総務企画部長 本市では、市民活動、公益的活動の活性化及び市民の創意による地域の実情に即した公共的なサービスの充実に図り、市民と市との協働のまちづくりを推進することを目的に「事業費助成型補助金等交付要綱」を定めており、この要綱が共通の基準になります。申請者に対しては、担当課において、必要に応じて指導や助言等を行い、補助金等に係る予算執行の適正化に努めております。

Q 稲吉5丁目地内の市道8-0494号線は冠水が起りやすく、当該の市道付近の住宅では大雨が発生した場合、床下浸水が危惧されています。本市の雨水排水対策の計画について伺います。

A 都市建設部長 現在、隣接する稲吉4丁目地内に逆西調整池の整備を進めており、調整池を整備することで、下流部の雨水幹線への流入水量が一時的に軽減され、逆西1号幹線の雨水排水負担も軽減されることにより、ご指摘のエリア付近の冠水も軽減するものと想定をしております。なお、調整池の整備計画は、今年度実施設計を行い、令和9年度から整備工事に着手していく予定です。

質問通告事項



映像はこちらからご覧ください

- 1 外国人市民に対応した窓口業務について
- 2 行政窓口のキャッシュレス化について
- 3 感震ブレーカーの普及推進について
- 4 稲吉5丁目地内の冠水が起りやすく床下浸水が危惧される市道への雨水排水対策について
- 5 本市における助成金・補助金について



石澤 正広 議員



Q アウトリーチ整備を進める考えがあるか伺う

A 待つ支援から届ける支援へと転換していくアウトリーチ整備は重要であると認識しています

Q こどもの貧困、見えない貧困把握について、様々な支援制度を知らず、相談もできない家庭があります。行政は、相談を待つのでなく、市が届ける支援制度アウトリーチの整備が必要です。アウトリーチ整備を市の重点施策として進める考えがあるか伺います。

A 保健福祉部長 本市として、近年は、母子家庭やひとり親家庭に対しては、相談窓口や給付制度などを整備してきましたが、未だ支援につながっていない家庭があるものと考えております。これまで、訪問・アウトリーチについては、主に心身の不調や子育て中などで来庁できない方に対して状況確認や支援・制度の情報案内してきました。これからは「待つ支援」から「届ける支援」へと転換していくアウトリーチ整備は、重要であると認識しています。

議員ご質問の子どもの貧困と、きめ細かな支援体制の構築には、広報誌や子育て支援サイト「かすみっ湖」を通して情報発信に注力し、支援制度や相談窓口などの情報を市民の皆様によりよく伝えた上で、それぞれの家庭の状況に応じた家庭訪問や個別相談などを実施していくことが重要だと考えます。

先進事例の調査・研究とともに、引き続き、こども家庭センターや保健センターを中心に、新生児訪問や相談支援、子育て支援拠点等を通じて、支援が必要な家庭の早期把握に努めてまいります。

質問通告事項



映像はこちらからご覧ください

- 1 子どもの貧困の実態把握と支援体制について
- 2 やさしい窓口サービスについて
- 3 県の補助事業を積極的に活用し、市単独では実現が難しい分野まで市民サービスを拡充することについて



佐藤 文雄 議員



Q 中心市街地の持続可能な公共施設整備及び活用の方向性に関する提言書(案)について伺う

A 提言書の内容を精査して、中心市街地における公共施設の整備を進めたい

Q 市長が諮問した中心市街地における公共施設の在り方に関する検討委員会は3月19日、中心市街地の持続可能な公共施設整備及び活用の方向性に関する提言書(案)を提出した。市長の見解を伺う。

A 市長 提言書では、人口減少や財政状況など現状を踏まえ、将来を見据えた公共施設の適正配置や複合化、多機能化、さらには中心市街地のにぎわい創出など、多岐にわたる視点から市の現状を理解した提言をいただきました。今後は、提言書の内容を精査して、まちづくり全体との整合性や財政状況などを踏まえながら、中心市街地における公共施設の整備を進めたいと考えております。

Q 水道事業の広域化に関わって水道料金の値上げが課題となるが、市長の見解を伺う。

A 市長 将来の水道料金は、施設の維持管理、更新、様々な費用をトータルで勘案して、統合に参加したほうが財政的にもメリットがあるというシミュレーションの結果が出ましたので、参加に踏み切ったという経緯があります。

- 1** 百里基地への長射程ミサイル配備計画に対する市の考え方について
2 複合交流施設の見直しについて
3 水道事業の広域化について
4 入札制度の改革について



設楽 健夫 議員



Q 市東消防庁舎移転のメリットとデメリットそしてモラトリウム(再検討)について伺う

A 現在の東消防署敷地内での建て替えは面積上可能ですが、消防活動しながらの工事は課題があります

AQ 市東消防庁舎移転のメリットとデメリットについて伺います。

A 市長 移転により消防署から遠くなる地域、近くなる地域があることや、サイレンの音や緊急車両の往来によって周辺の生活環境に一定の変化が生じることも想定しております。遠くなる市民の皆様には不安があるかもしれません。近くなることで一時的に音を心配される住民の方もいらっしゃるかと思います。救急体制の充実や将来を見据えた防災拠点機能の強化など、地域全体の安全性向上につながる面もあると考えております。

AQ 公共財産の有効活用、訓練施設について伺います。

A 消防長 現在の霞ヶ浦庁舎敷地内で建設する場合、緊急車両の出動ルート等の確保に、土地を購入しないと難しく、旧霞ヶ浦庁舎敷地は、大和田城跡地の指定文化財の場所、土地利用に一定の制約があります。

現在の東消防署敷地内での建て替えは、面積上敷地内に配置することは可能ですが、通常の消防活動をしながらの工事は様々な課題があります。計画地の旧霞ヶ浦保健センター跡地は、一部周辺道路の状況に留意すべき点もありますが、総合的に現在の東消防署の場所より消防活動が向上すると考えております。

消防職員の訓練は、移転先の建物や敷地を利用し、現在の東消防署の敷地は、分団による操法訓練等を使用します。

Q 原点に戻り、検討した3つの場所について、財政上の問題も含めて検証していくことが必要であると思いが、考えを伺います。

A 消防長 検討した上で現在の旧霞ヶ浦保健センター跡地になりました。

質問通告事項

- 1** 広域行政と行政改革について
2 市東消防庁舎移転のメリットとデメリット、モラトリウム(再検討)について
3 神立駅西口市有地2万8000㎡のアンケートとサウンディング調査について
4 逆西雨排水1号幹線と下稻吉1号幹線及び二子塚排水路について



▲東消防署

塚本 直樹 議員



Q 東消防署移転後の周辺整備について伺う

A 誠意を持って可能な範囲で対応してまいりたいと考えております

Q 霞ヶ浦南小学校の保護者説明会を通じて出た意見と対応について伺います。

A 消防長 参加された保護者からの主な質問ですが、体育祭などの学校行事の際の保護者駐車場に関する質問が主な内容であり、車両のサイレン音や緊急走行に対する不安、庁舎建設に反対するようなど意見はありませんでした。むしろ、消防署が近く建設されることに對して、子どもたちにとって情操教育にもいいとの好意的なご意見も伺っております。

Q 移転後の周辺環境について、地域の住民の方から寄せられている声について伺います。

A 消防長 要望書の1点目は、夜間から早朝の時間帯はサイレン音を消すか、もしくは下げていただきたいというご要望です。消防としてしましても、緊急走行をする際は赤色灯をつけて、かつサイレンを鳴らすことが道路交通法で義務づけられております。そのため、サイレンを停止しての走行はできませんが、周辺環境に配慮し必要に応じ音量を抑える方法で対応してまいります。

2点目としては、地区内を走行する際は、徐行運転を徹底していただきたいのご要望です。地域の安全を第一に考えたご要望ではありますが、消防として1分1秒を争う救命活動や火災の延焼を最小限に食い止めるための緊急走行の中で一部地域にだけ対応することは難しい状況です。1人でも多くの命を救うための緊急走行であることをご理解いただき、周囲の交通状況に注意し、安全運転の徹底に努めていく旨の回答をしております。

区長からの要望書についてですが、いずれの要望も東消防署がこの地区に建設されることを皆さんが受け入れてくださった上でのご要望と認識しておりますので、消防として今後も誠意を持って可能な範囲で対応してまいりたいと考えております。

質問通告事項

21 東消防署移転後の周辺環境について

今年2月に策定された霞ヶ浦コミュニティセンター
長寿化計画について



▲東消防署移転予定地
(旧霞ヶ浦保健センター跡地)

小倉 博 議員



Q 長寿社会を目指したスポーツ施策について伺う

A ウエルネスプラザを主体として健康への自主的な取組を支援しております

Q 健康増進とフレイル防止の観点から、スポーツと関連した市の福祉関係施策の現状を伺います。

A 保健福祉部長 市では、ウエルネスプラザを主体として、トレーニングルームの活用や体幹トレーニング講座やストレッチ講座などの教室を開催しており、健康への自主的な取組を支援しております。また、フレイル予防等の普及啓発活動や運動、栄養、口腔等の健康教育、健康相談を実施しており、老人クラブを対象にフレイル予防教室を実施しております。さらに、市民出前講座のメニューにも加えており、集いの場を通じ、高齢者の日常的な健康づくりに積極的に関与していくこととしております。

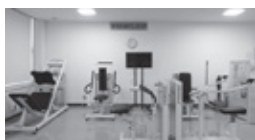
Q 本市のDX推進の進捗と、市民が利便性向上を実感できるDXをどのように実現していくのか、今後の方向性について伺います。

A 総務企画部長 広報誌の多言語化及び自動音声読み上げ機能による対応や、かんたん窓口システム・窓口翻訳システム等を導入しております。今後の方向性については、電子母子手帳アプリの導入があります。子育てに関する情報の掲載のほか、妊娠中やお子さんの成長の記録、予防接種のスケジュール管理等、これまで紙の母子手帳では実現できなかった機能が盛り込まれており、6月から利用できるようになっております。また、施設予約システムでは利用者IDと予約操作の統一化を図り、利用者の利便性が一層高まることが期待されているところ

質問通告事項

21 長寿社会を目指したスポーツ施策について

DX（デジタルトランスフォーメーション）時代に
おける本市の施策について
本市の福祉バスの運用について



▲ウエルネスプラザ
トレーニングルーム
(からだほぐしエリア)